

令和7年度 高山市立丹生川中学校 学校経営の重点及び自己評価 校長 竹林 一彦

方針と重点	基本施策	学校目標	資質・能力	育てたい	基本施策との関わり	本年度新たな学校の重点	具体的な実践内容または観点 (手立てとしてどうか、または達成度はどうか)	評価 A S D	分析と改善点
重点・方針・目標 ・未来社会を創造する ・歩み寄り環境の整備 ・郷土教育の推進 ・ICT教育の推進 ・学び続ける子の育成	⑤安全・安心・心豊かな学習環境の整備 ④D地区の活性化 ③地域との連携 ②関係機関・関係団体との効果的な連携 ①豊かな心・健康な身体・確かな学力の育成	自ら・共に	主体的に考え行動する力・つながり認め合い支え合う力	学が楽しさや喜びが味わえる授業 安全・安心を基盤とし、どの子にも居場所がある学校	①教科指導の充実	・前を向きっぱなしの画一的な授業からの脱却 (生徒の対話・活動50%以上) ・意図的な対話・議論の場の工夫(表出させる場の工夫)	A	・自校評価において、教師主導の一斉授業から脱却をしてきている。実態に応じて意図的に取り組めたと感じている。 ・班隊形スタート授業を意識したことで対話が多くなった。	
					①④個に応じた学習指導の充実	・学び楽しさを味わうための自己選択、自己決定、自己調整の場の設定の工夫をする。 ・ICTの効果的な活用	B	・学習隊形を自己選択・自己決定させたことにより、意欲的に学習に向かう生徒が増えた。 ・保護者の方が安心できる学習指導を工夫していく。	
						★学校評価アンケート、生徒アンケート数値目標 「学習内容を理解している」(生徒85%、保護者75%) 「授業が楽しい」(生徒5月83%→2月90%)	B	★「学習内容を理解している」12月生徒89%保護者64% ★「授業が楽しい」1月生徒85%	
					②「なりたい自分」の実現を通して、心を育てる指導の充実	・「なりたい自分」の実現に向け、何度でも挑戦できるよう支援し、見届ける。 ・三者懇談でプレゼン発表の場を設定する。 ★生徒アンケート数値目標 「なりたい自分に向けて努力できる」(生徒5月94%→2月95%)	B	★「なりたい自分に向けて努力できている」生徒96% ・節目ごとに、「なりたい自分」を意識させている。 ・「なりたい自分」をクールごとに振り返り、次のクールで「自ら何をするのか」につなげられている。	
					②よりよい仲間関係の育成	・いじめ、不登校の未然防止と対応、教育相談、特別支援教育の組織対応 ・定期的に生徒アンケートを実施し、即時対応をする。 ★生徒アンケート数値目標 「学校が楽しい」(生徒5月93%→2月95%)	A	★「学校が楽しい」生徒1月96% ・事案ごとに、各職員が連携・共通理解を図り、組織的に丁寧に対応している。 ・その日のうちに聞き取り・指導までできるように心がけてきた。	
					②③相互承認の育成	・誰か助けてくれる、自分も誰かの役に立てるといふ、互いに認め合う力の育成 ★生徒アンケート数値目標 「分からないことがあったら誰かに助けを求めたり、困っている人がいたら手を差し伸べることができる」(生徒5月93%→2月95%)	B	★「分からないことがあったら誰かに助けを求めたり、困っている人がいたら手を差し伸べたりしていますか？」生徒1月94% ・助けを求めることに恥ずかしがる生徒もいる。さらにメタ認知、適応力向上に向けて指導方法を工夫していく。	
					③①郷土学習「にゅうかわ学」の充実	・更に系統性のある年間計画に改善し、実施する。 ・國學院大學と連携し大学生と共に活動する機会をつくる。 ・発信活動として、魅力CM・提言プレゼンを作成し、プレゼン教育の推進につなげる。 ★学校評価アンケート数値目標 「地域の魅力を学んでいる」(生徒90% 保護者90%)	A	★「地域の魅力を学んでいる」生徒96%、保護者86% ・丹生川の地域で実施した國學院大學主催のゼミ活動に参加することができた。また、修学旅行3日目に、國學院大學を訪問し、大学生と共に学ぶことができた。次年度も、國學院大學との連携を継続していく。	
					③②関係諸機関、関係団体との効果的な連携	・「学校運営協議会」「すくなくっ子教育連携会議」「まち協」との連携や活動において、地域行事やボランティアなど、生徒が企画から参画したり、体験の充実を図ったりしていく。 ★学校評価アンケート数値目標 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」(生徒85%)	A	・地域が主催する行事に積極的に参加し、ボランティア活動ができるようになってきた。 ・無理のない持続可能な活動にしていきたい。	
					③小中連携	・管理職会議、担当者会議、合同全校研を行い、具体的指導の共有と実践 ・小中合同でPTAリサイクル活動を実施し、組織の在り方を検討する。	B	・小中PTA合同でのリサイクル活動を計画したがクマ出没のため中止となった。今後の状況を考えて、リサイクル活動の方法を小中PTA本部役員会で検討している。	
						⑤働きがいのある職場づくり	・改編してきた日課等を継続し、その検証をする。 ・勤務形態の違う職員が勤務しやすい職場環境をつくる。	A	・全職員が同僚性を大切に勤務することを心がけるとともに、具体的な方策を講じて、働き方改革を進めている。
学校運営協議会における主な評価内容						□午前中の小学校参観から午後の中学校参観、9年間の成長過程を見させていただいた。中学3年は、正に義務教育の集大成の姿であった。 □今年度の振り返りについては、小中共に子どもたちや保護者アンケートをもとにきちんと分析されており、状況を理解することができた。 ■丹生川の子どもたちのために、さらに「質の高い楽しい授業」を追求し続けてほしい。 ■「ほおのき平でのスキー」「乗鞍登山」など、丹生川の自然素材をふんだんに使って教育活動を進めてほしい。			